



次世代への提言！

神学生交流プログラム講演記録集

日本クリスチャン・アカデミー関東活動センター編

◆A5判・並製・368頁・本体2100円

教派の枠を越えて集った神学生たちの交流の場で語られた10年間の講演。
次世代の教会を担う人たちに各分野の先達から贈る渾身の言葉。

【目次より】

荒井 献 信仰と新約学／福音宣教の功罪

小林哲夫 お茶とキリスト教——キリスト教土着化の試み

本田哲郎 貧しくされた人々への福音

関田寛雄 説教とわたし——個人史的回想

杉野 榮 京都におけるキリスト教文化

青野太潮 『十字架の神学』の前提として、イエスの福音をどうとらえるか／イエスの

十字架の意味

森 一弘 虚しさにつきあげられて／キリスト教と教会の原像

並木浩一 自伝的な回顧と聖書学の方法の探索／いま、旧約聖書の世界から考える

石田 学 わたしの霊的な歩み／日本で福音を宣べ伝えるということ

神田健次 エキュメニカルな課題との出会い／エキュメニカル運動の軌跡と神学的課題

戒能信生 私の歩んできた道／宣教論的視点から見た日本プロテスタント史

7月22日発売

リュティの本

主イエスの言葉と働き

ルカ福音書1章から10章による講解説教

ヴァルター・リュティ著／野崎卓道訳

7月22日

傑出した説教者が第二次大戦後の混乱期に力強く語った
61編の講解説教。「リュティの説教に導かれ、御言葉を分かち合い、共に祈る交わりの時は実に祝福に満ちたものです。」(訳者)



◆四六判・405頁・定価2300円

祝福される人々

山上の説教抄講解

私たちにとって、まことの幸、真の祝福とは何か。山上の説教の「八福」をとりあげ、祝福の深い意味を力強い言葉で説き明かす。野崎訳 四六判 1680円

十戒

教会のための講解説教

徹底的に神の言葉に耳を傾け、現代人が直面する問題に正面から取りくみ、慰めと励ましに満ちた真に「聖書的な倫理」を展開する。野崎訳 四六判 2100円

主の祈り

講解説教

混乱の中にある人々に、真の希望を語った力強い12の説教。巻末に、リュティが自らの生涯を振り返って綴った自伝的エッセイを付す。野崎訳 四六判 2100円

預言者サムエル

サムエル記上講解説教(オンデマンド)

リュティが初めて歴史書に取り組み、冷戦下の同時代的な問題にも言及しながら歴史の中で働く神の主権を証しする。61〜63年の講解。実戸訳 四六判 2835円

この日言葉をかの日に伝え

小説教一日一章

バルトやトゥルナイゼンの盟友であり20世紀を代表する小説教者のアドベントから始まる簡潔で美しい小説教。言葉の贈物としても最適。井上訳 A5判 6300円

話題! 重版
間もなく出来!

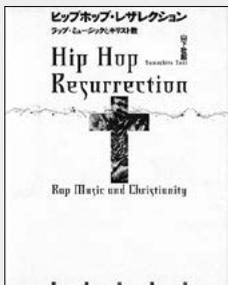
ヒップホップ・レザレクション

ラップ・ミュージックとキリスト教

山下壮起 (阿倍野教会牧師)

◆A5変型判・本体3200円

ヒップホップはなぜ繰り返し神や十字架を歌うのか。アフリカ系アメリカ人の宗教史を背景にラッパーたちの歌詞を聴き、その深い宗教性を浮かび上がらせた、気鋭の神学者による注目作。



ジャン・カルヴァン著／森川甫訳

共観福音書註解 下巻

マタイ・マルコ・ルカの三福音書を対観しながら記された注解書。福音書の「調和」を見出そうとする改革者の情熱。上巻の刊行から36年ぶりの邦訳完結となる。

A5判・予価85000円

宮平望著

デイズニー変形譚研究

前著『デイズニランド研究』の続編に当たる本書では、分析をテーマパークから主要作品に移し、聖書的テーマの変容を丹念に辿ることによって、聖俗の狭間にあるデイズニーの世界観に迫る。

A5判・予価20000円

エリザベス・シフトン著／穂田信子訳／安酸敏眞解説

平静の祈り——ラインホルド・ニーバーとその時代

「神よ、変えられないことを平静に受け入れる恵みを、変えるべきことを変える勇気を、そして双方を見分ける知恵をわれらにお与えください」。このあまりにも有名な「平静の祈り」（一九四三年）が生まれた時代背景・神学状況とニーバーの人生行路を愛娘が綴る。

A5判・予価40000円

▼新規オンデマンド復刊予定

組織神学 第一巻 パウル・ティリツヒ著

A5判・本体90000円

カール・バルトの生涯 E・ブツシユ著

A5判・本体140000円

●6月に出た本と雑誌

イエスの福音 それは本当は 何だったのか

ジェイムズ・M・ロビンソン著／加山久夫、中野実訳

Q資料やトマス福音書など「言葉福音書」と呼ぶ資料を深く読みこみ、イエスがガラリヤで語った「良き知らせ」福音」の核心である「神の国」に迫る。

◆四六変形判・本体35000円

現代のバベルの塔

新教出版社編集部編 反オリンピック・反万博

寄稿者 有住航・いちむらみさこ・酒井隆史・入江公康・塚原東吾・田中東子・坂井めぐみ・井谷聡子・白石嘉治。

◆四六判・本体20000円

キリスト教史 下巻 増補新版

フスト・ゴンサレス著／石田学、岩橋常久訳

2010年の原書増補新版は宗教改革に1章、現代史に2章が増補され、また随所に修正と改訂が施された。その待望の新訳。

◆A5判・本体59000円

福音と世界

7月号 コミュニズムの現在性

◆税込6600円

寄稿者：市川崇、山本泰三、清水知子、小田原琳、小林卓也

入江公康／栗田隆子、金迅野、好井裕明、土井健司、マニユエル・ヤン、松本あずさ、長谷川修一、辻学

山口政隆、内田樹



©Jean-Claude Moireau

『グレース・オブ・ゴッド 告発の時』

7月17日(金)よりヒューマントラストシネマ渋谷ほか全国公開。

監督・脚本=フランソワ・オゾン。出演=メルヴィル・ブポー、ドゥニ・メノーシェほか。2019年、フランス、2時間17分。配給=キノフィルムズ/東京テアトル。©2018-MANDARIN PRODUCTION-FOZ-MARS FILMS-France 2 CINÉMA-PLAYTIME PRODUCTION-SCOPE

●「ブレナ神父事件」。フランスのベルナル・ブレナ元神父が長年にわたって信徒家庭の少年たちを性的に虐待していたことをおとんなった被害者が告発、八〇名を上回る被害者の存在が明らかになったという異様な事件ですが、これを果敢にもドラマ映画化したのが『グレース・オブ・ゴッド 告発の時』(監督=フランソワ・オゾン)です。まだ審理中の事件を映画化したことに明確な主張を感じさせる映画は、被害者たちが自身の尊厳の回復と加害者の処罰を求め、「沈黙を破る会」を結成する過程をおもに描いていきます。被害から何年たってもトラウマに苦しめられ、家族の無理解や世間からの好奇の

目にさらされる、その重力から脱け出す足場となるのが「会」であり、被害者やその家族の交流と結束なのです。ですがキリスト教徒の立場からは、たんにそのさまに感動するのではゆるされません。ヨンの街にそびえる教会はブレナの手為を知らぬが何も動こうとしなかった。つまりは加害者の側にあつたのですから。終盤の「会」での議論、キリスト教を棄てていくべきなのか、それとも内部から変から変わらない限り、前者を選んだひとを引き止めることはできないはず。オゾン監督はこう語ります。「この映画を見たある司祭にこう言われました。『この

映画はもしかすると教会にとつてはチャンスかもしれない。教会が映画を受け入れられれば、ようやく教会内部で起きた事件の責任を負い、その撲滅のための最初で最後の闘いを始められるかもしれない』そう期待しましょう!」この闘いにわたしたちが参与すべきなのは、ほんとうに「最初で最後」たりうるのか。闘いは、ここ日本の教会でもおこなわれねばならないのですから。(堀)

福音と世界

2020年
8

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料(送料共)8760円

特集・反・内戦

「コロナ騒動は『グローバル内戦』を隠蔽する」 杉村昌昭

「内戦」時代のドローン —— 人間狩りの時代と倫理 —— 渡名喜庸哲

そのインフラはほんとうに必要なのか —— ジェントリフィケーションと「都市空間の軍事化」をめぐって 原口剛

ミリタリズムとネオリベラリズムを手をたずさえてやってきた —— 京都府京丹後市宇

川の歴史と現在からの考察 —— 大野光明

兵士のプロテスト、教会の反戦 —— 阿部小涼

内戦と「ミニオン」 —— 「外出自粛」の日々から考える 仲田教人

【注目の連載から】

◆いまを生きていることは5 …… 金迅野

◆「Say a Little Prayer」開かれる世界5 …… 栗田隆子

◆新約釈義 第三モテ書 5 …… 辻 学

◆くまさんのシネマめぐり 8 …… 好井裕明

◆教父学入門 12 …… 土井健司

◆バビロンの路上で 17 …… マニエル・ヤン

◆遺跡が語る聖書の世界 19 …… 長谷川修一

◆福音書記者たちの饗宴 20 …… 松本あずさ